

(セミナー名称)		
2021年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2021年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2021年10月2日(土)に2021年度第3回山形県がん化学療法セミナーを「緩和領域」をテーマにWeb形式で実施した。</p> <p>一般演題では、山形県立新庄病院 薬剤部 小林由佳先生と山形市立病院済生館 薬局 薬局長 荒井浩一先生にご講演頂いた。また、特別講演では、富山大学附属病院 臨床腫瘍部 副部長・診療講師 梶浦新也先生に「がん治療医が実践する緩和ケアとがん疼痛治療」と題してご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2021年10月2日(土)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>60名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>一般演題として、小林由佳先生には「コロナ禍で増加する在宅緩和ケア患者を支えるために～地域連携の推進に向けて～」と題してご講演頂いた。院内外の他職種スタッフや一般市民に対する緩和ケアの普及活動について自施設や地域での取り組みを紹介頂いた。コロナ禍で在宅看取りを含む在宅療養患者が増加し外来での在宅療養支援が増加している。そのような中で見えてきたスタッフの知識向上や在宅療養対応医療機関不足など様々な課題とそれらを解決するための他職種検討会議について講演頂いた。荒井浩一先生には「医療用麻薬について考える ～麻薬管理者の立場から～」と題し、麻薬管理者の立場で講演頂いた。徐放性モルヒネ製剤発売以降多くの医療用麻薬が販売・使用されているが法的規制が厳しい医療用麻薬の管理について講演頂いた。自施設でオピオイドスイッチングを行う際の換算間違い事例が発生したため、換算表やROO製剤の使用方法に関する資料作成など実施した対応策について解説いただいた。麻薬管理者の立場特有の課題を聴講できる貴重な機会となった。</p> <p>特別講演として富山大学附属病院 臨床腫瘍部 副部長・診療講師 梶浦新也先生に「がん治療医が実践する緩和ケアとがん疼痛治療」と題して講演頂いた。自施設で作成・改訂された緩和ケアマニュアルをご紹介頂き、ACP(アドバンスケアプランニング)や</p>		

新薬のアナモレリン、ジクロフェナクナトリウムテープの改訂点やナルデメジン、ヒドロモルフォン、ミロガバリンについて薬剤の特徴、エビデンスについて解説頂いた。最後にカルテ記載の工夫を説明頂き、チーム医療を進める上で他職種にも理解してもらえるポイントを解説頂いた。講演では患者・家族・医療者間で病状認識が一致していない事が多くある点、チームとして患者対応が大切であり患者もチームでの対応を望んでいる点と話され、多職種連携の必要性を再確認できた有意義なセミナーであった。